

瀋陽だより

2015年10月

報告者：東北育才学校

高井 奈央子



体育大会

育才学校では、9月に入学式が終わり、その後10月の国慶節休暇に入る前に体育大会を開催します。曜日めぐりと体育大会の日程を上手く調整して、体育大会後から連休に入ることになっています。振り替えの授業が土曜日に入ったりもしますが、部活動がないため、特に問題は発生していないようです。学校行事と曜日振り替えの自由度は、日本よりもはるかに高く、よく連休が発生します。とはいえ、生徒たちの大半は塾や習い事で休んでいる暇はほとんどないようです。

中学部の校舎は瀋陽の中心部にあって敷地が狭いため、高校部の立派なグラウンドを借りて開催されました。日本の高校生が見たら羨ましがらるであろう人工芝とトラックです。

日本と少し価値観が違うなど感じたところは、子どもだから子どもらしく、ではなく、大人たちが参加している大会のようにしなければならない、という点です。

写真の鳥は鳩です。開会のファンファーレとともに、隅に控えていた業者がケージを開け放って飛ばしました。また、各クラスから選抜された女の子が特別な衣装を着て、花を手を持って先頭を行進したのち、最前列に並びます。まるで全国大会のミニチュア版のようです。

「体育大会の練習」らしきものはほとんどしていなかったにもかかわらず、普段から体操と行進の練習をしているだけあって、一糸乱れぬ行進を披露していました。

メインはトラック競技です。高校部になると、授業中に幅跳びや長距離走を行って体育大会のために順位を出してしまっているようですが（例えば、私の日本語の授業中に、選手である生徒が外で競技をしているということもあります）、中学部は場所もないため、全て当日できる競技にしています。

家族でスポーツクラブに通っている生徒はウェアからして本格的なものを着用し、自慢の脚力を披露していました。

なお、私は授業の都合上見ることはできませんでしたが、高校部の大会を見た先生は「新疆部の生徒の走力はレベルが違う」と言っておられました。私も是非見てみたかったのですが、授業と重なっていたため、どうしようもありませんでした。



スタジアムスタイルの座席にいる生徒たちは、リーダーの号令の下、様々な道具を使って応援していました。

朝 5 時前に中学部を出発したので 10 時ごろには早くも空腹だったのですが、すかさず保護者の方々が、生徒たちと教員にチョコレートバーを配ったり、昼食時には吉野家の弁当を配達させたりと、保護者の力の入れようもかなりのものでした。

競技にしる食事の手配にしる、あまり教員の関与は見られなかったと思います。勿論、生徒たちが自主的に運営できるよう、陰ながらのサポートはあったと思いますが、「練習はしていないけどみんな色々持ち寄れば何とかかなる」という精神で体育大会を成功させていたのだと思います。

中国に来て 1 年以上経ちますが、テストを含めた学校行事は、ある日突然決まります。しかも直前になって連絡が来ることが多いです。それでも何とかしてしまうだけのパワーがあるので、最終的には誰も困らないのです。

気楽でのんびりした運営方法が、生徒たちと保護者、そして教員の皆さんの笑顔につながっているのでしょう。

病院へ

1. 歯医者

去年の8月末に中国に来て以来、大した病気もせずに一年を過ごしていたのですが、10月はいろいろと健康面での問題が発生した月でした。

知り合いから、ヌガーのようなものを貰って、それを部屋で食べていた時です。ナッツにしては硬いものがあるなと思って吐き出してみると、それは自分の銀歯でした。奥歯を舌で恐る恐るなぞると、ぽっかり穴が空いているのが感じられ、これはどうしようもないというので歯医者に行くことにしました。買い物ならいざ知らず、医者に一人で行くのは心許ないので、担当の贾先生の付き添いで、太原街にある育才学校の校医さんである歯医者を訪ねました。

まず受付で使い捨ての前掛けを購入したのち、先生に症状を説明してもらおうと「4階へ行ってください」と言われ、そのまま4階へ行きました。

ところがその4階にいらっしゃる歯医者さんに私の銀歯を見せたところ、「これは何だ。初めて見た」と言われてしまいました。付き添ってくださった贾先生も私の銀歯を凝視して「何でできているんですか？」と聞かれる有様で、予想外の事態に私は大層狼狽してしまいました。「これは虫歯を治療して、できた穴に詰めるものだ」と説明するとますます怪訝な顔をされました。歯医者さんや助手の人たちが集まって私の銀歯を観察し、ついでに私の歯も観察した後「3階へ行ってください」と言われ、不安な気持ちを抱えたまま階段を下りました。

3階にいた歯医者さんは、「ずいぶん古いですね」と言いながら、私にとっては馴染みのある歯科専用の接着剤を塗りつけ、無事銀歯を元に戻してくれました。

帰り道に贾先生と話していて判明したのですが、中国では虫歯治療で銀歯は使わないとのことでした。こういうものを使うと、見た目が良くないから中国ではほとんど使わないとのこと。日本でもレジンを使って目立たない形で治療することはできますが、おそらく治療費を全額支払わなければならないことになります。私は外国人なので、中国の医療費システムがどうなっているのかは分からないのですが、もしかして日本の方が古いスタイルなのではないかという考えがちらりと頭を掠めました。

私が多くの虫歯の持ち主で気になったのでしょうか、贾先生は「高井先生は、飴が好きだったんですか？」と聞かれました。確かに甘いものは好きですが、私が虫歯になってしまったのは口内に虫歯菌がいた上、歯磨きが下手だったからです。そのことを説明すると、「やはり電動歯ブラシの方がいいでしょう」と、我が子を虫歯ゼロのまま育てたい贾先生に日本のデンタルケアについて色々聞かれました。

こんなに虫歯だらけの私の話で大丈夫なんだろうか、と思いながらフッ素配合の歯磨き粉の話などをして学校まで帰りました。

2. 大学病院

夏の終わりからずっと風邪をこじらせていて、発熱したり治ったりを繰り返していたのですが、どうにも完治しないので、贾先生に相談したところ、念のため病院へ行って診てもらおうということになりました。

日本から持参した薬もあったのですが、服用しても症状が治まらず、またこれから大気汚染が悪化する季節に咳風邪の状態のままでいたくないという気持ちもあったので、一度医師の診察を受けることにしました。

連れて行ってもらったのは地元の大学病院です。私はこんな立派な、しかも予約を取るのが難しそうな病院に連れて行ってもらわなくても、と遠慮したのですが「他の病院とは比べ物にならないから」と言われ、恐る恐るゲートをくぐりました。

右写真は院内ロビーの様子です。一見するとデパートか駅のように見えますが、病院です。どの科も人、人、人で、はぐれないようにするのが精一杯でした。

料金は全て前払い制で、専用の料金所へ行って支払いを済ませ、領収書を持った状態でレントゲンや血液検査を受ける、という順序のため、あちこちに行って列に並ぶことを繰り返さなければなりませんでした。

レントゲンに異常もないので、液体の薬と顆粒の薬の2種類を処方してもらって帰途につきました。



「中国の薬を初体験」と、少し緊張しながらパッケージを開けてみると、顆粒上の薬の外包には「DAIICHI SANKYO」とありました。日本の製薬会社は世界中で活躍しているようです。

一月に2回も病院に付き添ってくれた育才学校の先生には本当に感謝しています。日本と一緒に病院に行くとなると半日以上かかるので、仕事をやりくりするのも大変だったことと思います。

おかげで咳は順調に回復に向かっています。